

雲から降ってくるものは

空に浮かぶ雲、見ていると様々に変化していき、いろいろな形に見えてきたりもします。では、この雲は一体何からできているのでしょうか。

空気中には目に見えないですが、水蒸気がたくさん含まれています。雲はこの空気中の水蒸気が“あふれてしまった”ものなのです。空気中に含まれる水蒸気の量は、温度によって変わります。温度が高いと水蒸気をたくさん含むことができますが、低くなると含むことができる量が減ってしまいます。例えば、たくさん水蒸気を含んだ空気が、地上から上空高くに移動したとします。上空は地上より温度が低いいため、含むことができる水蒸気を超えてしまいます。この時のあふれた水蒸気が、水や氷の粒となり、雲として見えています。

日立市付近の上空にある雲は、一年を通して水滴ではなく、氷の粒のことがほとんどです。雲の中で氷の粒の量が増えていくと、それぞれがつながることで、より大きな氷の粒となり、重くなって地上に落ちていきます。落ちてくる際にとけると「雨」となりますが、冬など気温が低いときは、とけずに落ちてきてしまい「雪」となります。積乱雲などの中では、氷の粒の動きが激しくなっており、大きな氷の塊ができることがあります。これらがとけずに落ちてくると「ひょう」になります。また、氷の粒がぶつかり合って静電気が発生し、「雷」も発生します。

積乱雲の下では「ひょう」や「雷」局地的な突風や大雨などの恐れが高まります。これからの季節、大気が不安定になることが多いので、雲の様子にもご注意を。

今年の夏の気候は

気象庁の長期予報によりますと、関東地方は、平年並みから高い気温となり、降水量はほぼ平年並みの予想です。

平年の値（日立市役所）

項目	6月	7月	8月
平均気温（℃）	19.2	23.0	24.9
降水量（mm）	165.1	162.5	145.6
日照時間（時間）	113.3	130.2	172.7
平均湿度（％）	82	84	82

平年値（1981～2010年の30年間の平均）

過去の気象の特徴は月ごとにホームページに掲載しています。

防災対策課と共同運用の「日立市の防災と天気」Facebook ページと Twitter もご利用ください。

※日立市の天気予報は、天気相談所ホームページで毎日発表しています。<https://www.jsdi.or.jp/~hctenso> 行政放送でも定期的に天気予報をお知らせしています。電話での問合せは、直通電話 22-5520 IP 電話 050-5528-5066 へどうぞ。